

## 「平和記念式典の感想」

安田中学校 3年 女子生徒

私は8月5日・6日に広島へ行き、たくさんの平和についての考えを知りました。平和に対する想いは国を通じて同じだということが分かりました。

まず一日目に、広島平和記念資料館に行きました。そこで学んだことは、原爆は、無差別にそして大量の命を一瞬にして奪ってしまう恐ろしいものだということです。戦争をすることが正しい戦い方だとは言えないと思いました。亡くなった方々や残された方々の言葉を思い返すと、どれほど辛くて憎いことだったのかが分かりました。自分の子どもや親に二度と会うことが出来なくなってしまう、それが辛いという言葉では表せないほど悲しかっただろうと思うと、心がとても痛みました。

そして二日目に、広島平和式典に参列しました。日本中の偉い方々や報道陣の方がいらっしゃっていて、外国の偉い方々もいらっしゃっていました。原爆で生まれた人々の苦しみが国を超えて届けられていることに、世界は平和に向かいつつあるなと感じました。広島市議会議長様が一番真剣にお話をされていて、一つ一つの言葉が心に深く残りました。平和への誓い 子ども代表のお二人の話が強く頭に入ってきて、平和への願いや、平和にするために自分たちが何をしたらいいのかを考えさせられました。最後の広島平和の歌は、広島で被害に遭われた方々やそのご親族様だけでなく、平和を願う全ての人々のために歌われた歌のように感じました。

私たちが未来の平和を築いていくためにしなければいけないこと それは、人と人が力を合わせ手を取り合うこと、二度と戦争をしないこと、互いを理解し合うことだと分かりました。今回学んだことを忘れずに自分の力で未来を切り拓いていこうと思いました。

## 「広島派遣で感じたこと」

安田中学校 3年 男子生徒

今回、阿賀野市の代表として、広島に行って日本や世界の過ちを学びました。

日本の戦争で起きた原爆投下に関連する場所をたくさん見学しました。原爆ドームが電車から見えたとき、今までテレビで見ていたより強く、悲惨さを感じました。

広島平和記念公園では、たくさんの千羽鶴を見ました。全国各地から千羽鶴が集まるような会に出ることができて良かったと思いました。

そして、僕が一番印象に残った平和記念資料館では、何か足が地につかないようなフワフワした感覚になって、資料だけでも拒むような感じがするのに、こんなことを生で自分の目で見た人がいると思うと、悲しく、また少し怖くなりました。資料の中に「眠ってしまったら、死体と間違われて焼かるのではないか」という言葉がありました。死人と生存者の区別がつかなくなるほどに、人がたくさん亡くなったことを知りました。

他にも放射能を浴びたせいで、「死の斑点」と呼ばれる、体に黒い斑点がでた兵士の写真や、原爆で変わり果てた町の写真、変形した鉄などを見ました。見て回っていてとても苦しかったのを覚えています。

平和記念式典では、国の代表や世界の中でもトップの方々が、戦争、原爆の愚かさについて語っていました。世界で戦争がまだある中で、核兵器が二度と使われないようにしてほしいと思いました。

僕は、広島に行って戦争の愚かさを再確認することができました。阿賀野市の代表として、学校の代表として学んだことを、まずは身近な人に発信し、少しずつたくさんの人に戦争や核兵器をなくすことに興味をもってもらえればよいなと思います。

そして、自分たちが感じたことその人が感じたことが、また広まってくれることを信じています。とてもいい経験になりました。

## 「研修に参加して」

安田中学校 3年 女子生徒

私が研修を終えて、一番印象に残ったのは、平和記念資料館です。

まず入ってすぐの所に、原爆投下される前の広島の写真が飾られていました。その写真を見たときに、人々が笑顔で、町もにぎやかそうだなという第一印象を持ちました。しかし、次の写真を目にしたときにそんな明るい気持ちは一瞬のうちに消え去りました。建物は焼け崩れ、人々は高熱で皮膚がただれ落ち、真っ黒こげの死体がそこら中に転がっている写真が目の前に広がりました。私は恐ろしくて、その写真をまともに見ることができませんでした。

しかし、これだけではありませんでした。次のところには、被爆した方々によって描かれた、原爆当時の絵が飾られていました。その絵は人々がまるでゾンビのように描かれていて、人を描くときには、あまり使われない赤色が多く使われていました。その絵を見たときに、人々が血を流して、さまよい歩いている姿が目に見えませんでした。

そして、奥に進んでいくうちに「黒い雨」というものを見ました。そこの説明のところには「原爆後、黒い雨が降り注いだ。しかし、喉が渇いた人々はこの黒い雨を飲むしかなかった。しかし、この雨には放射線が含まれていたため、黒い雨を飲んだ多くの人は亡くなった。」と書かれていました。これを読んだときに人々は生きるために水を飲んだのに、その水が原因で亡くなってしまったと聞いて、すごく悲しい気持ちになりました。

他にもいろんな所を見学し、あらためて原爆は恐ろしい物だと再確認し、平和な世界のために二度とこのようなことを起こしてはいけないと強く心に思いました。また、この日に原爆ドームを見て、残ったのが本当に奇跡だと思いました。

この研修で学んだことを学校に帰って、一つ残らず、皆に伝えて、原爆がどんなに恐ろしい物なのかを知って欲しいです。

## 「広島平和記念式典に参加して」

京ヶ瀬中学校 3年 男子生徒

今回、広島平和記念式典中学生派遣事業に参加させていただき、私は核兵器の恐ろしさや、戦争の悲惨さをあらためて痛感し、平和の大切さを学びました。

広島平和記念資料館では、77年前に起きた原爆での恐ろしい悲劇の様子が、写真や資料でたくさん展示されていました。火傷を負い、川の中に飛び込んだ人々の山積みになった死体の絵や、放射能を帯びた黒い雨を飲む被爆者の絵、被爆者が実際に来っていたボロボロになった服などがありました。中でも私は、被爆して黒こげに火傷をした人々の写真を見たときに、目を背けたくなり、とても心が痛み、涙が出そうになりました。原爆ドームは、被爆した当時の姿で残っていて、核兵器の破壊力を思い知らされました。一瞬にして14万人もの命を奪う核兵器の恐ろしさを痛感し、絶対に、二度とあってはならない事だと強く思いました。

平和記念式典では、とても重々しい雰囲気の中、内閣総理大臣をはじめ、海外の来賓の方々や被爆者やご遺族など多くの方々が参列していました。そして8月6日8時15分、77年前に悲劇が起きた時間に黙とうを捧げました。式典では来賓の方々のあいさつがありましたが、私は、こども代表の平和への誓いがとても心に残りました。広島市内の男女2人の小学生が、ゆっくりと分かりやすく話していました。その中に、「過去に起こったことを変えることはできないが、未来は創ることができる」と言う前向きな言葉があり、私はとても共感しました。

私は、広島研修の前までは、平和があたり前だと思って生活していました。しかし、悲惨な時代から今の日本をつくるためには、大勢の方々の計り知れない努力があったのだと思います。私達は、今の平和な時代に感謝し、平和の大切さや命の尊さ、戦争の恐ろしさなど、今回学んだことを未来に伝えて行かなければならないと強く思いました。

## 「研修を終えて」

京ヶ瀬中学校 3年 女子生徒

私は、広島平和記念式典中学生派遣事業へ行けて本当に嬉しかったです。良い体験ができました。ありがとうございます。

私は研修を終え、いろんな感情が沸き上がりました。

最初は、一日目に行った原爆の子の像と折り鶴、原爆ドーム、広島平和記念資料館です。禎子さんの像を見たとき、すごい量の折り鶴があり、たくさんの人々が禎子さんのことを思っているんだなと思いました。原爆ドームは教科書やニュースとかで見たことがあるけれど、実際に行くと全然違って、原爆の悲惨さが伝わってきました。資料館へ行って私は、被爆者に対し、「苦しかったよな」と悲しみを覚えました。それとは逆に原子爆弾を投下した人達に怒りが込み上がりました。8月6日の惨状や放射線による被害で、家族や友人を失った悲しみに耐え、心身に残る傷や病を抱えながら生きていた人々は本当に強いなと思いました。自分がもし、その場にいたら、耐えられず、生きることができなかつたと思います。なので、生きて、生きて耐えてきた人々はかっこいいと思いました。

次に、二日目に行った広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式です。会場に行ったときたくさんの人が来ていて、驚きました。式典が始まったとき、早起きだったので正直眠たかったけど、最後まで聞くことができました。黙とうのときに私は、「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返しません、安心して下さい」と想いながら黙とうしました。内閣総理大臣などのあいさつのときに、言っている内容は分からないけど、デモみないな声が聞こえて、そういうのがあるんだなと思いました。

最後に改めて研修を終えて、これからも原爆の悲惨さと平和の大切さを伝え続けるとともに、原爆や戦争はあってはならない、世界の全ての人々が平和で豊かな暮らしを送ってほしいと思いました。

# 「八月六日の広島を見て」

京ヶ瀬中学校 3年 男子生徒

僕は、今回の広島平和記念式典中学生派遣を通して、普段見ることのできない原爆の恐ろしさやそれによる被害を見ることができました。

初めて原爆ドームを見たときは、「とても高い建物だなあ。」と思いました。しかし、原爆投下前の写真を見ると、本当はもっと大きく、ドームの部分は緑色であったことを知りました。また周辺には瓦礫も多く散乱しており、原爆の威力を物語っていました。

次に原爆の子の像を見ました。鐘を鳴らし、佐々木貞子さんをはじめ、原爆で亡くなった全ての人々に「平和を守り続けます。」と誓いました。世界各地から届いた折り鶴を見ると、「平和」や「幸せが続きますように」といった平和継続へのメッセージが込められており、「平和は国を問わず、皆が願っていること」だと分かりました。

広島平和記念資料館では、原爆投下時の広島の状態を、写真や絵が生々しく伝えてくれました。爆心地から6km離れた場所でも巨大なきのご雲が見え、強烈な爆風はガラス片を勢いよく飛ばし、壁に突き刺さりました。爆心地付近にいた人々は何も分からないまま即死。生き残った人々も地獄と化した広島を見て、大きな絶望を感じました。このことを知ったとき、自分もそこにいたかのような感覚になり、大きなショックを受けました。また、被爆者の遺品の展示を見て、被爆者の無念の声が伝わりました。「もっと生きていたかった」「皆の笑顔が見たかった」そんな声が聞こえた気がしました。

平和記念式典中、国連のグテーレス事務総長は核兵器の早期廃絶を呼びかけ、現在核兵器不拡散条約といった核廃絶の取組をしていると発言しました。国際社会も核兵器廃絶へ進んでいると知りました。

今回の派遣で僕は、多くの原爆と広島の実態を知りました。また、平和の尊さを学びました。

## 「広島派遣に参加して」

水原中学校 3年 男子生徒

私は昔から戦争について考えたり、ニュースを見たりしていました。その中で特に興味を持っていたのが『原爆』というものでした。

そして、その原爆がもたらした事を見て、その中で特に印象に残った事が三つあります。

一つ目は、原爆ドームです。教科書やテレビでしか見た事がなかったのですが、実際に近くで見るとその当時の様子がリアルに見え、言葉が出ませんでした。

二つ目は、平和記念資料館で見た物です。資料館には、原爆が落ちた時の服や物、写真そして当時の様子を表した絵など様々な物が展示されていました。その中には全身をやけどしてしまった人、目が落ちてしまった人等とても目をそらしたくなるような内容の物もありました。そして被害を受けた方たちの『魂の叫び』があり、そこでは、家族を心配する声、生きたい、死にたくないという魂の叫びが書いてあり、とても心が締め付けられ、また戦争や原爆の苦しさが伝わってきました。

三つ目は、平和記念式典です。平和記念式典にはすごくたくさんの方が参加をし、そしてたくさんの国が参加をしていました。8時15分には黙とうが行われ、その時は式典に参加した全員が一体となり、被爆者に対して祈りを捧げていて、日本ってすごいなと思いました。

私は二日間で様々なことを学びました。戦争とは何か、原爆がもたらした被害など、数えきれないほど、見て、聞きました。

今日この原稿を書いている8月15日は、日本が終戦となって77年目。ニュースでは戦争経験者の高齢化が進んでいるというのが問題になっていました。

私たち若い人たちが目をそらさずに正しい情報を真摯に受け止め、戦争を二度と繰り返さないようにしていくことが大切だと思いました。

貴重な体験をありがとうございました。

## 「平和記念式典に参列して」

水原中学校 3年 女子生徒

私は8月6日に行われた、広島平和記念式典に参列させていただきました。

まず派遣初日、式典の前日の8月5日に、平和記念資料館に行きました。

まずそこで目にしたのは、当時の被爆者が使用していた物や着ていた服なのです。物はボロボロになり、錆びていたり、服も同じく、ボロボロでした。それらを見て、私の脳裏に浮かんだのは、当時の広島街の様々でした。あちこちに燃え上がる煙、炎。水を求め、歩き回っている被爆者たちです……。地獄絵図です。資料館ではそのような多くの展示物を見ました。

そして式典当日、広島市長、総理大臣などの方々のお話を聞いて、私がまず思ったのは、平和というのは簡単にはつukれないのだということです。今の平和は、色々な世代の方が努力したから、平和であると思います。でも、今も、100%平和であるとは言えないと思います。というのは、まだ戦争があるからです。その戦争は、日々、人々が頑張る努力してつukってきた「平和」を踏みにじる、ということに値すると思います。

その戦争を始めた国は、世界から「やめろ」と言われていますが、正直、やめる気配がありません。一日でも早く、戦争が終わり、平和が来ることを祈っています。

このように、式典はたくさんの方の心をも動かしていると思います。

私は式典に参加してよかったと思います。

そのおかげで、「平和とは何か」気づけたような気がします。

## 「広島に行って感じたこと」

水原中学校 3年 女子生徒

私は、広島記念式典中学生派遣事業という貴重な体験を終えて、原子爆弾や、戦争について新たに分かった事や感じた事があります。

その中で一番心に残った事は、平和記念資料館を訪れたことです。

平和記念資料館には、当時の広島の様子が生々しく残っていました。子どもの名前を一生懸命呼ぶ母親、水を求めた川に飛び込み溺れる人々、肌が赤くドロドロに溶けてしまった人など沢山の苦しんでいる人の様子が写真や絵となり展示されていました。見ているだけで胸が締め付けられてような感覚になり、涙が出てきました。

また、その中では無事に家族のもとへ帰る事が出来た人々もいました。互いに生存を確認でき喜び合ったと記されていました。しかし、そんな時間もつかの間、元気だった人々が急に倒れ、寝込んでしまう人が増えました。安心し、喜んでいた所から急にどん底へと落とされた気分は、絶望的だったのではないかと思います。この様なことが起こった原因は、原子爆弾から放たれる「放射線」です。被爆した多くの方は沢山の放射線を浴びていたため、時間差でこの様なことが起きてしまったのです。

また、今でも放射線の後遺症に苦しんでいる人々がいます。原子爆弾は心身共に永遠に傷を残します。私はこの事実を知り、こんなことは二度と起こしてはならないと心に強く感じました。

そして今、ウクライナでは罪のない人々が戦争によって苦しめられ、原子爆弾を使うと示唆までされています。同じ悲劇を二度と繰り返さないために私たち若い世代が、「戦争や原子爆弾は、破壊と苦しみしか生まない。」と発信し、行動する事が大切だと思います。ニュースや教科書では学べない大切な事を学ばせてもらったので、若い世代にも、もっと知ってもらえるように発信していきたいです。

## 「広島への派遣を通して」

笹神中学校 3年 男子生徒

私は、今回の広島への派遣を通して、原爆が落とされた頃の広島を伝えて行くのは自分たちの世代なのだと改めて感じた。そして、被爆したあの頃の広島は、自分が想像した何十倍の辛さ、痛みを痛感させるものばかりだった。これから、私が広島への派遣を通して思ったことを二つ挙げる。

一つ目は、被爆者についてだ。1945年8月6日8時15分に広島に原子爆弾が投下された。原子爆弾は平和だった広島を瞬時に破壊し、家を全壊させ、1945年の末までに約14万人の死者を出した。被爆した人々の姿は、皮膚が黒く焼きこげ、髪は焦げちぢれ、顔や腕や背中、足に火ぶくれができた。原子爆弾から放たれた放射線は人々を苦しめていった。川には水を求めた数万人の被爆者で埋まり、広島は一瞬で地獄と化した。被爆者が生きようとして死んでいった姿を想像すると心が締めつけられる。

二つ目は、遺族についてだ。原爆により家族や友人、恋人を失った人が大勢いて、運よく生き残ったが、放射線による後遺症により残りの人生を狂わされた人がいる。残された遺族は、酷く姿が変わった身内、死者を目の当たりにした。中には遺骨で見つかり、骨の状態で渡された遺族もいた。そのような遺族の気持ちを想像すると、心がさけるような思いだ。

しかし、そのような経験を乗り越え、前を向いて生き、原爆の悲惨さを後世に伝えている遺族がいる。私たちはそのような遺族の姿勢を見習うべきだ。

原子爆弾は、今では世界の国々が保有しているが、いとも簡単に町を破壊し、人々を殺す“大量虐殺兵器”を盾にして、相手を脅すことがどうして簡単にできるのか？私には理解できない。私は原子爆弾の恐ろしさ、痛みをこれからも訴え続ける。それと共に、広島原爆がいかに悲惨だったか、被爆した死者、遺族の思いを今生きている若者、次世代を生きる人々に伝えていくことを全うする。

## 「派遣で考えた多くのこと」

笹神中学校 3年 男子生徒

僕は、今回の広島平和記念式典中学生派遣事業で、核の恐ろしさや悲しさ、被爆した人の思いや苦しみなど多くのことを考えさせられました。

僕が核の恐ろしさをとっても考えさせられたのは、広島平和記念資料館に展示された資料の数々です。自分たちは原爆ドームを見て周ってから資料館に行ったのですが、そこには当時の原爆ドームの写真や核ミサイルの熱線で火傷を負った人が体中包帯だらけになった様子の写真などがたくさんあり、頭がぐわぐわと気持ち悪くなるほど悲惨で、僕は、とても恐怖を感じました。

また、この資料館で自分が印象に残ったのは、コンクリートの床にすわっていた人の影が熱線によって写し出されていた展示物です。これを見て僕は、いつもどおりの日常を過ごしていたのが、一瞬にして壊されたものだと思い、とてもじゃないけど想像できない事があったと感じました。

次に、僕が原爆のない世界を創っていく大切さを感じさせられた事がありました。それは、平和記念式典で平和への誓いのスピーチをしていた、こども代表のバルバラ・アレックスさんと山崎鈴さんの言葉で、「過去は変えられなくとも未来を創ることはできる。被爆者の思いや声を聞き、たくさんの人に伝えて明るい未来を創る。」とあって僕はとても共感したし、原爆というものは他人事ではなく、全人類が核兵器や原爆について考えなければならないと思わされたスピーチでした。

僕は、今回の広島平和記念式典派遣事業で改めて、原爆、核兵器の恐ろしさを理解して、この日本で起こった非人道的な事が二度と繰り返さずに、世界から、核兵器のない世界をつくれるように、自分がこの事業で学んだことを少しでも多くの人に伝え、自分たち若者が何をすればいいかを考えて未来をつくっていきたいと思います。今回の事業は自分の人生でとても良い経験になりました。

## 「派遣事業に参加して」

笹神中学校 3年 女子生徒

私は、8月5日・6日の広島平和記念式典中学生派遣事業を通して、これからの世界について考えることが出来ました。

初日は、原爆ドームや平和記念資料館を見学しました。原爆ドームは想像以上に大きく、近くには川が流れていました。水を求めて川へ逃げる人々の様子が頭に浮かび、涙が溢れそうになりました。

その後、千羽鶴奉納、原爆死没者慰霊碑への献花をし、平和記念資料館を見学しました。館内には絵や写真、遺品と共に被爆者の言葉が展示されていました。

一瞬で変わり果てたヒロシマに、「シャッターが切れない。」

そんな中でも、あの日を写してくれた被爆者の思いや写真、絵を忘れてはいけません。この想いを伝えるのは私たちだと、改めて実感しました。

私は、被爆者の「生きていかなければならない」という言葉が印象に残っています。大切な人を亡くした辛さだけでなく、原爆症への無理解など、周囲の視線からの精神的な辛さを考えると、心が痛くなりました。

翌日の平和記念式典の、平和への誓いで「未来は創ることができる」という言葉がありました。過去を伝え、平和な未来を創りあげる。これが私たちに残された課題だと感じました。

最後に、広島平和記念式典中学生派遣事業という貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

当時の学生が「人々の頭からは、あの凄愴は薄れていく」という言葉を日記に残していました。実際、世界全体で、その言葉通りになっていると思います。

あの日の風化を止めることが出来るのは、私たちです。この貴重な経験を活かし、笑顔と平和が溢れる世界を、私たちが創っていきます。